

スペイン語シケプリ

間近の試験に対応してるかと思います。けどもうちょっと使い物になるように作ったつもりです。
なお、アクセント記号を出すのが面倒だったのでアポストロフィーで代用しています。悪しからず。

1 発音について

今回の試験では甘く見られるアクセント記号について。でも超基本、かつ重要事項。

<アクセントの位置>

教科書5ページ参照。なお、アクセントの有無で意味の変わる単語もある。

<開母音と閉母音について>

「あ」「え」「お」が前者、「い」「う」が後者。

<二重母音>

これを確実にすると、発音の仕方が分かってるけどアクセント記号が付くか付かないか覚えてない…という問題をその場で解消可能。

ずばり、開母音+開母音以外の組み合わせは二重母音なので、一つの母音として扱う。

二重母音は一つの母音として扱うので、これとアクセントの位置の定義を併せて考えればアクセント記号がつくか否かの判断が下せる。

<綴り字の規則>

教科書6ページ上表は、考えれば書けるレベルにしておいたほうがよい。

2 動詞の活用

今学期のメインテーマになってるように思われる。規則変化、語根母音変化、強変化などの基本的な型は押さえておくべき。不規則変化は、期末対策なら小テストで扱ったものをおさえておけば最低限は大丈夫だろう。

上クラのシケプリに動詞の表はまともなものが載っているので割愛。ほかには小テストおよび教科書参照のこと。

<前ばらし・tenerの活用>

	現在形	線過去	点過去	現在完了	過去完了
1人称単数形	tengo	teni'a	tuve	he tenido	habi'a tenido
2人称単数形	tienes	teni'as	tuviste	has tenido	habi'as tenido
3人称単数形	tiene	teni'a	tuvo	ha tenido	habi'a tenido
1人称複数形	tenemos	teni'amos	tuvimos	hemos tenido	habi'amos tenido
2人称複数形	tene'is	teni'ais	tuvisteis	habe'is tenido	habi'ais tenido
3人称複数形	tienen	teni'an	tuvieron	han tenido	habi'an tenido

※ちなみに現在分詞は *teniendo*

3 代名詞たち

英語なら「あいまいみーまいん」的に覚えているので、そっちのアプローチから。

1人称単数形	yo	mi	me	mi'o / mi'a
2人称単数形	tu'	tu	te	tuyo / tuya
3人称単数形	e'l / ella	su	lo / la le	suyo / suya
1人称複数形	nosotros / ~as	nuestro / ~a	nos	nuestro / ~a
2人称複数形	vosotros / ~as	vuestro / ~a	os	vuestro / ~a
3人称複数形	ellos / ellas	su	los / las les	suyo / suya
usted (es)	usted(es)	su	lo(s) / la(s) le(s)	suyo / suya

※赤文字は、その代名詞が示す名詞が複数であった場合に複数形に変化する (+ s)。

※目的格のセルが分かれているところは前者が直接、後者が間接目的語。後述を参考のこと。

4 目的語、目的格について

教科書 p28 参照。わからなかったら演習問題やるべし。試験に深くは出ないとの噂も。

<直接目的語と間接目的語について>

簡単に言えば、「○○を」が直接目的語、「○○に」が間接目的語。

<語順>

直接、間接の両者を代名詞化する場合、間接+直接の順で動詞の前に前置。

<注意事項>

二重目的語を取る際、le が前に来た場合は、se に変化。

<後にくっついちゃうやつ>

不定詞の動詞の目的語は、前置する代わりにその不定詞に繋げて一語のようにしてよい。

verte / escucharlos など。

このへんは、自由に使えずとも、見分けられれば十分だろう。

5 前置詞+人称代名詞

英語の感覚で行くと、with me のように後には目的格が来るのだが、スペイン語ではそのルールは通用しないので気をつけるべし。

<1人称・2人称単数>

mi' / ti'が来る。para mi' など。

ただし、前置詞 con に対しては con mi' / con ti'ではなく **conmigo / contigo** となる。

<それ以外の場合>

目的格でなく、主格がそのまま入る。con nuestro など。

6 gustar 型動詞の扱い

ある意味受身動詞のような感じとってよいだろう。教科書 29 ページ参照。

テクニク的には

- ① 主語を目的格の形にして最初において、
- ② 目的語を主格の形にして最後において、
- ③ ②でおいた名詞の人称にあわせて gustar を活用させ、①と②の間へ
といった感じが。※

gustar 型動詞は他に parecer (～と思う)、doler (～が痛い) がある。前者は本文にて頻出であるので、訳問題などで出るかもしれない。

なお、文頭に「a+主語の主格」を加えると、強調される。3 番目の例文を参照。

※ただ「私はあなたが好きだ」という場合は

Tu' me gustas.

のようになることもできるらしい。Me gustas tu' がバツなのかどうかは分からないが、おそらくこんな問題でやしないので気にしないで。

7 否定語について

今試験のことを考えるのなら、大まかに訳せれば大丈夫かもしれない。でも全部頭に入れとくと今後楽なはず。

<否定代名詞>

- ・ nadie = 「誰も～ない」。 ⇔alguien
 - ・ nada = 「何も～ない」。 ⇔algo
 - ・ ninguno (ninguna) = 「誰も／何も～もない」。 ⇔alguno
- nadie・nada と ninguno の違いは、前者が単純に「誰も」「何も」であるのに対して、ninguno は全体を見た上で、そのうちの「誰も」「何も」である点。ただ、この使い分けは正直わからん。

<否定形容詞>

- ・ ninguno (ninguna) = 「どの～もない」。
- 後にくる名詞が母音で始まる場合は ningun になる。

<否定副詞>

- ・ nunca = 「決して～ない」。 (=never)
- ・ tampoco = 「～もまた～でない」。 (=neither)

<おまけ：接続語など>

- ・ ni = 「～も～ない」。
- ・ ni tampoco = 「～すらも～ない」。

辞書の例文より：Ya no quiero hablar ma's contigo, ni tampoco quiero o'i'r tu voz.

(ma's=more / voz=voice)

8 疑問詞

- que' = what
- quie'n = who
- co'mo = how
- cua'nto = how many / how much
- cua'l = which
- do'nde = where
- cua'ndo = when
- por que' = why

cf. porque = because

全部覚えてないと訳問題で訳せないかも。ほぼ全部本文で出てきているので説明は不要だろう。

9 関係詞について

英語的にできるうえ、英語より種類が少ないようなので比較的容易か。教科書 51 ページ参照。

- que = which that who whom (人によっては whose としても使う)
- donde = where

※なお、本文で幾度と無く出てきている cuando も関係副詞 when として働く。

<限定用法と説明用法>

Tengo un amigo que es de Tailandia. (僕にはタイ出身の友達が一人います)

Tengo un amigo, que es de Tailandia. (僕には友達が一人いて、彼はタイ出身です)

<独立用法>

定冠詞+que とする。英語の what に相当する。

Lo que pasa es que... (何が起こったかという)

<ついでにその他>

quien も関係代名詞として働ける。もちろん先行詞は人のみ。

また、英語の whose にあたるのは cuyo (cuya cuyos cuyas)。

さらに、cuanto も英語の all に相当する働きをできる。Vendi' cuanto libros teni'a.

10 ~mente の副詞

あまり書くことはないが、アクセントの位置は元の副詞から動かないことに注意(アクセント記号の有無に関わらず)。m [e] nte の位置には第二アクセントが来る。

なお、ここに掲載していないものとしては指示語、数詞、序数はしっかりおさえておくとよい。
以上。質問や間違い指摘などはトヨタまで。